

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作り	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### 【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

### 【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### 【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	扇寿苑グループホーム
（ユニット名）	扇寿苑第一グループホーム
所在地 （県・市町村名）	秋田県大館市比内町
記入者名 （管理者）	本間 泰
記入日	平成20年 10月 1日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>.理念に基づく運営</b>				
<b>1.理念と共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		グループホームとしての理念を作り上げ、職員全員で共有し、日々実践に励んでいる。	理念に基づいて取り組んでいく。
2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		運営者と管理者と職員は理念を共有し、運営者と管理者は職員の取り組みに協力的である。	管理者は理念の実践に取り組んでいることを常に意識し、職員の指導に当たっている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		家族へは入所時・ホーム便り等で伝えてはいるが、地域の方には理念を伝えるのが困難であり、浸透には至っていない。	地域の方にはグループホームの役割を理解頂けるよう努力をしていかなければならない。
<b>2.地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		日常的な近所付き合いはないが、災害対策として町内会・地元消防団に避難訓練に参加していただき、災害時の応援体制を整えている。	散歩や買い物の中でも顔見知りの方に声をもらえるような関係を築いていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		孤立はしていないが自治会等との交流はない。	町内行事等へ出かけ地域の方たちと交流していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域への貢献力は不足している。		地域包括支援センターと連携し認知症に関する相談等に応じていく。
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容を職員に伝え、改善に向けた取り組みに前向きである。		特に救急、災害対策は必要性を感じており、研修、訓練を実施している。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では各委員から活発な意見を頂いている。		意見を反映しサービスの向上に繋げる努力は今後も必要である。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者は気軽に相談に応じてくれておりサービスの質の向上に貢献してくれている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な方への支援は行われているが、職員は制度についてもっと学ぶべきとおもわれる。		制度に関する勉強会を開催していく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケースカンファレンス等で学ぶ機会を持ち、防止策に努めている。		虐待防止法について文章で確認しながら自己を振り返るようにする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居、退居の際は本人、家族と話し合いを重ね充分納得いただいた上で決定している。</p>	<p>退居時には生活上の不安が生じないように地域や家族とも連携していくようにする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々利用者から出た要望や意見は職員間で話し合い、サービスに取り入れいかしている。</p>	<p>運営推進会議で出た意見や家族からの助言についてもどんどん反映させていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月ホーム便りを発行し、生活の様子をお知らせし、個人別に家族に手紙も発送している。面会時を利用し小遣い帳の確認をさせていただいている。</p>	<p>特に利用者の健康状態については遠方の家族には詳細に伝えて行きたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置をしたり、面会時に様々な相談に応じられるよう配慮している。</p>	<p>不満の解消、苦情の処理は即対応していく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見は、利用者の意見と捉えていただき話し合いの上、取り入れてもらっている。</p>	<p>職員の意欲向上のためにいつでも話しやすい環境にしている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>急を要する要望、緊急時に対しても、どの職員もすぐに対応できるよう連携している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は最小限に行い利用者に影響しないよう配慮している。		馴染みの関係が続けられるよう短期間での移動がないようにしていく。
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に研修に参加させる機会を設けており、自己研修にも励んでいる。		個々に自らも向上心を持って研修に参加していく。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流はない。		日々の悩みやケアの質の向上のために他事業者の職員と話し合いの場を持ちたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士気軽に悩みを話し合える良い人間関係が築かれている。		職員の休憩場所を確保していきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務実績に応じて研修、資格取得等を奨励し、各自が自ら向上心を持てるよう支援している。		資格取得、研修など、もっと各自が意欲を持って取り組んでいく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接に於いて職員を交え本人の悩みや困りごと等の相談に応じている。</p>	<p>御本人に安心して入居いただけるよう、丁寧な対応を心掛けたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の悩みは深刻な場合が多く、時間をかけて話し合いをしている。</p>	<p>家族のみだけでなく本人に関わる全ての関係者に信頼していただけるよう努力していく。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当事業所ですぐ対応できない場合は他事業所の紹介もしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学していただいたり、空きのあるときはショートステイを利用いただくときもある。</p>	
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活の場として本人のできる事の見極めをし、職員との共同作業により信頼関係を築いている。</p>	<p>本人の意欲や活動力を引き出し、利用者同士が共に協力し合えるように支援していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	長期利用されていくうちに、ご家族が疎遠にならないよう職員が積極的に呼びかけをし面会を奨励している。		いつでも訪問しやすい関係を築いていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人にとって何より大事なのが家族である事を職員すべてが認識し、いつでも本人と家族が連絡が取り合えるよう支援している。		見当識のなくなってきている本人に対しても家族の訪問は良い刺激になることを伝えて行きたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたい家族へ連絡したり、行きたい場所へはすぐに出かけられる準備がある。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合い、仲良しの利用者がいることで支えあい、笑い合える関係が出来ている。		職員が間に入ることで益々利用者同士が交流できるように支援していく。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても訪れていただけるよう伝えている。		契約終了後も地域の相談役として親交を継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の気持ちに近づけるようコミュニケーションを取りケアに活かし、意思疎通が困難な方でも職員から積極的にアプローチしている。</p>	<p>心の把握はまだ不足している為、もっと利用者さんの様々な気持ちを引き出して行きたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時点から本人、家族に生活歴を伺い、バックグランドアセスメントに残しサービスに活かすようにしている。</p>	<p>利用者本人が忘れていた事でも、記録がある事でコミュニケーションが取れるようにしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人のその日の力量を職員が見極めをし、笑顔で取り組めることを提案している。</p>	<p>本人ができる事は部分的であっても、参加できる環境を準備していく。</p>
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画には本人の希望、家族の意見、スタッフの気付きなどを取り入れ作成している。</p>	<p>本人と家族の要望に違いがある時は折り合いのつくような提案をしていく。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間ごとの見直しは随時行い、又急な状況変化にはその都度家族に報告すると共にサービスの内容変更を伝え作成している。</p>	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録は出来るだけ詳細に記入し本人の言葉やニュアンスがそのまま伝わるようにしており、個別ケアや計画の見直しに役立っている。</p>		<p>記録から本人の微細な変化を読み取り、早めの対処をしていく。</p>
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族から突然な要望があってもその時々にあわせ対応していくように心がけている。</p>		<p>唐突な行動であっても、本人の気持ちに添って対応していくようにする。</p>
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している</p>	<p>気軽に電話で相談できるDr、地区の小学校との交流計画などあるものの、地域の方にはもっとホームの役割を発信する必要がある。</p>		<p>地域の方には認知症に対する理解を深めて頂きたくホーム便り等を活用、発信し協力を得て行きたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>敷地内の他事業所のケアマネが訪ねてくれたり、他事業所の理容師が気軽にサービスに応じてくれる。</p>		<p>地域ボランティアを気軽に受け入れしていきたい。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>具体的な協働活動はないが準備段階にある。</p>		<p>認知症キャラバンメイトの活動を包括支援センターと協働で開催していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		鑑別診断されていない利用者については状況を勘案し本人、家族と相談の上専門医を受診できるよう支援していく。
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	看護職員の配置をしておらず気軽に相談できるとはいえない。	同敷地内の看護職員と協力体制をしていきたい。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入退院については本人や家族の負担にならないよう、入院先の看護師から情報を得ており状態が安定し次第、退院に向けた支援を行っている。	空きベットを利用しショートステイを受け入れ、退院後の居場所を確保し安心して治療していただいている。
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	本人の意志に基づき家族や医師とも相談しその都度本人にとって最良の方法を検討している。	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	出来る限り本人の希望に添えるよう、家族の思いに答えられるよう、医療関係者と良く相談の上対応にあつたている。	ターミナルケアはやっていない。が看護職の配置があれば検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	本人にとって最良の場所を検討し家族とも話し合いを重ねた上、次の居所を決定している。		本人に関する細かな情報が提供できるように準備していく。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	大きな声で呼び掛けたり、個人のプライバシーが他利用者らに伝わることはないよう常に配慮するよう心がけたり、記録等の扱いにも気を配っている。		個人情報には特に慎重に取り扱っていく。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	言葉で表現しにくい方でも思いが伝わるよう、わかりやすい言葉で話したりボディランゲージ等で把握に努め、自己決定をさせていただいている。		ゆったりとした態度で接し、簡潔な表現でコミュニケーションを取るようになっていく。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	毎日の生活を決められた日課として過ごすのではなく利用者さんが自分から活動しやすい状況を自然な形で提供、支援している。		本人からの要望に合わせ、その日の過ごし方を決めていく。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	昔なじみの理美容院がありいつでもいけるよう支援しており、利用者さんも楽しみにされている。		出かけることが困難な方には他事業所の理容師が気軽に訪れてくれる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの力量に合わせ準備段階から関わっていただき職員も同じテーブルで食事を共にし、後片付けも一緒にしている。		旬の食材、行事にあわせたメニューと一緒に考える。
55	本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は希望によって一緒に買い物に出かけたり、家族が持参してくれる。		
56	気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	一人ひとりの排泄習慣を把握するようにしており、無理な誘導は行わないよう努めている。		排泄誘導、介助が必要な場合は声掛けの大きさに配慮し、プライバシーの保持に努める。
57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	散歩や作業で汗をかいたり、失禁の後に誘う等状況に応じた自然なタイミングを逃さないように工夫したり、利用者同士誘い合っている。		夜間入浴の希望はないが応じられるように体制を整えていく。
58	安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自室で自由に休んだり、その時々体調を勘案し休憩をすすめている。又眠剤を服用される方は本人の希望時間に合わせている。		昼食後の休憩は職員も一緒にとっている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の継続、家事、買い物、お喋りなど個々の力が表現できるように支援している。		自己表現できない方にも職員から積極的に働きかけをし、生きがいを見出していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方、金庫に預けられている方、管理能力は様々だが自由に使えるお金がある事を伝え安心感を持っていただいている。		自己管理されていてもお金の置き場所が不確かになってしまう方もあり、その方の性格を踏まえおき場所の確認を共にしていく。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は散歩に出たり、自宅に帰り畑作業をされるなどその日の希望により支援している。		自分から出かける希望のない方にも外に出る機会を勧めている。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に数回桜見物や紅葉狩りに出かけ気分転換に役立っている。		家族と一緒に出かける機会を作っていく。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話をしたり、家族からの電話を取り次いだり、耳の遠い方には家族からファックスが送られてくる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、兄弟、昔なじみの友人らが時々訪れのんびりと世間話を楽しんで行かれる。		訪問時間や曜日に制限はなく「いつでもおいでください」と皆さんに伝えている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する文章を各自熟読し、拘束の必要がないようにケアの質の向上に励んでいる。		身体拘束は必要のないものと認識して実践していく。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中の施錠はしておらず今後もその予定はない。		外に出ることは本人の自由であり、危険と思われる箇所へは必ず職員が付き添っていく。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員のポジショニングに留意し安全確認しており夜間は見守りしやすい位置をプライバシーに配慮しつつ確保している。		利用者の動き、行動のサインを職員全員が把握し、アイコンタクトでさりげなくケアできるようにする。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分の小物が洗濯できる方、居室で手が洗える方などに合わせ洗濯洗剤が自由に使えたり、石鹸を置いたりしている。		本人の状態に合わせ危険と判断した場合は、本人家族と相談の上職員の見守りのもと使用していく。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常日頃本人の状態から考えられるリスクについて職員間で話し合い、早めの対応策に切り替え事故防止に最善をつくしている。		ヒヤリハットの報告は職員全員に素早く伝わるようにし、及ばず事故に至った場合でも、再発防止策を職員間に徹底していく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	消防署主催の救急救命講習に職員が自発的に参加し、それを内部研修として実践訓練を行っている。		事故発生時のマニュアル通り行動できるよう、時々見直しをかねて、確認作業を行っている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域や避難訓練となりうる公共施設と連携を取り、避難訓練を実施している。		定期的な訓練を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	本人の状態変化はその都度家族に報告しており、考えられるリスクについても納得のできるような説明をしている。対応策については、その場で一緒に確認頂く事もある。		本人にも何の為の対応策であるかを説明し、了承を得ていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の体調管理に努め、微細な変化を見逃すことのないよう報告し合い、主治医に相談している。		体調変化の早期発見に努め、不調が長びく事のないように支援していく。
74	服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを個人毎にわかりやすくしており追加・臨時薬も掲示し、誰が何を飲んでいるか把握に努めている。又経過観察は細かく医師に報告し指示をあおいでいる。		危険のない確実な服薬を支援をしていく。
75	便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便困難な方は特に食べ物に気を配り、自然排便を促している。又、自発的に運動される方もあり、身体負担のない程度に支援している。		できるだけ薬に頼らないよう生活習慣の見直しにも取り組んでいく。
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後とは強制できないが、声掛けにより自発的に行って頂いたり、就寝前には義歯洗浄及び消毒液（イソジン）でうがいをしている。		自力で歯みがき・うがい・義歯洗浄できるよう支援に努めていく。
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食物摂取量、水分量を把握をしており、不足と思われる場合は体調を伺った上で代用の物を準備している。		食欲低下している時は本人の好みの物を準備し、適量摂取できるように支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、定期的に全職員で対策を確認しあい職員自らが感染源とならないよう配慮している。		面会者にも手洗いうがいを行って頂いている。
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の取り扱いは栄養師管理の下行われておりその日のうちに使い切るようにしている。調理器具は毎晩消毒している。		食べ残しはその場で処分する。
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにプランターを置き季節の花を植えている。		建物周囲の清掃は職員と利用者で行い草取りもまめにしている。
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は利用者同士がくつろぎやすいように椅子を配置し、季節の花を飾ったり自分達の作品をながめて会話が弾むように配慮している。		トイレに窓がない為換気がよいとは言えず消臭剤などを使用しながら快適に使えるようにしていく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれ気に入っているスペースがあり、思い思いの場所で自由に過ごしている。		気の合う同志が集える場を確保している。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室内へ持ち込みは自由なので本人の希望に合っ た使い慣れたものを使用している。		居室内の家具やベットの配置は本人の希望や技量 に合わせて配置している。
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	冷暖房の調節はこまめに行い、本人の希望にあわ せている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	歩行に支障がないような配置を工夫したり、個々 の動線に合わせて手を付ける場所も確保してい る。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱や失敗を未然に防ぐ努力をしており、本人の 意欲を引き出す工夫をしている。		一人ひとりの残存能力を活かし、できるだけ自立 した生活を営んでいただく。
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭で洗濯物を干したり、景色を眺めて楽しみな がら茶話会を開いたりしている。		玄関周りのプランターの手入れ、苑庭の草取り 等、活動の場を提供していく。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりのできる事、できない事をしっかり見極め、趣味活動に励み日々の生活の中で残存能力を存分に活かし、職員ともども明るい笑顔で生活していただいている